

【クレーム情報】

人造毛皮のパイル熱収縮

冬物衣料のジャケットやコートには、衿まわりや袖口に毛皮、人造毛皮（フェイクファー）などを装飾しているものがある。今回は、装飾に使った人造毛皮のパイルが、仕上げのスチームにより収縮した事例を紹介する。

原因

仕上げに使用したパフアイロンのスチームが、人造毛皮のアクリル系繊維を使ったパイルに直接当たったため収縮したものである。

アクリル系繊維は、アクリルに塩化ビニルを化学的に結合させた繊維。アクリルは、40～60℃で繊維が軟化して伸縮や形崩れ、風合い変化などの原因となるが、アクリル系繊維はアクリルよりもさらに耐熱性が劣ることからタンブラー乾燥や仕上げでのトラブルに注意を必要とする。

防止方法

人造毛皮に60℃以上の温度を加えるような処理は避けること。

人造毛皮

人造毛皮は、パイルの外観や風合いを天然の毛皮に似せたもので、裏側には織または編構造の基布が確認

でき、一見して人造品であることがわかる。天然毛皮と同様にコートやジャケットに縫製されていたり、衿まわりや袖口の飾り、コートのライナーなどに使用されていることが多い。人造毛皮に使用される繊維素材は熱や水分の影響を受けやすいものが多いことから、受け取り扱いでは次のような注意が必要。

受け取り時のチェック

着用による毛倒れや毛乱れ、衿、裾まわり、袖口などにすれ、脱毛などがないかを確認する。

取り扱いの注意

・パイルを内側にしてネットの中に入れて、石油系溶剤での短時間処理を原則にする。

・ウェットクリーニングする場合は、毛乱れや収縮などが生じやすいので、顧客に了解を得た上で行う。
・レーヨン素材の人造毛皮はウェットクリーニングを避ける。

・乾燥は、できる限り品物を動かさないようにして、60℃以下の温度で行う。
・スチームミングによる仕上げは避ける。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」で素材名を「アクリル系」に設定して検索すると、12月26日現在で13件の事故情報が確認できる。事故の内容は、収縮、パイルの変化、風合い変化が各3件、その他は変退色、硬化、損傷となっている。収縮、パイルの変化、風合い変化の事故原因は、すべてスチーム仕上げやタンブラー乾燥などの熱処理によるものとなっていることや、「スチーム禁止」、「ボア・フェイクファー部分アイロン・スチームアイロン禁止」など記載されているメーカーの付記用語からもアクリル系繊維は熱に弱いことが確認できる。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03 (5362) 7201



人造毛皮が、衿・前立て・裾まわり・袖口に施されている。
人造毛皮のパイルは収縮し、毛並みが乱れている。

- 品 名…ハーフコート
- 素 材…本体・ポリウレタン樹脂による合成皮革。
衿・前立て・裾まわり・袖口にアクリル系繊維による人造毛皮を装飾している。
- 取扱い絵表示 
- 付 記 用 語…スチームアイロンを使用しないで下さい。
- 処 理 方 法…石油系溶剤によるドライクリーニング、自然乾燥。パフアイロンによるスチーム仕上げ。
- 事 故 の 状 態…衿、袖口などに装飾されている人造毛皮のパイルが、一部収縮した状態になっている。